

私の住む上落合にある古墳についての研究

藤岡市立西中学校

2年4組 櫻井 柚希

(返却希望)

私の住む上落合にある古墳についての研究

藤岡市立西中学校

2年 櫻井 柚希

1 研究の動機

自分の住む地域にあり、日頃飼っている犬の散歩で訪れる古墳について興味を持ち、どんな古墳なのかを知りたいと思い研究することにした。

2 研究の目的

自分の住む家から近い「七輿山古墳」と「伊勢塚古墳」についてどんな歴史があるのか調査する。散歩コースにある古墳について興味を持ち詳しく知りたいと思ったため。

3 研究方法

- ①現地に調査へ行き実際の古墳の状況を把握する。
- ②現地にある看板から学び、情報が足りない部分はネットを利用し調べる。
- ③自分で調べた後、藤岡歴史館を訪れ調べる。また、歴史館のスタッフに質問して補足情報あるか確認する。

4 内容

七輿山古墳

6世紀代の古墳としては東日本最大級

群馬県藤岡市上落合にある古墳。形状は前方後円墳。白石古墳群を構成する古墳の1つ。国の史跡に指定されている。

| | |
|------|----------------------------------|
| 所属 | 白石古墳群 |
| 所在地 | 群馬県藤岡市上落合（毛野国白石丘陵公園内） |
| 位置 | 北緯36度15分41.25秒 東経139度2分22.70秒 |
| 形状 | 前方後円墳 |
| 規模 | 墳丘長145m 高さ16m（後円部・前方部） |
| 埋葬施設 | 横穴式石室 |
| 出土品 | 埴輪 |
| 築造時期 | 6世紀前半 |

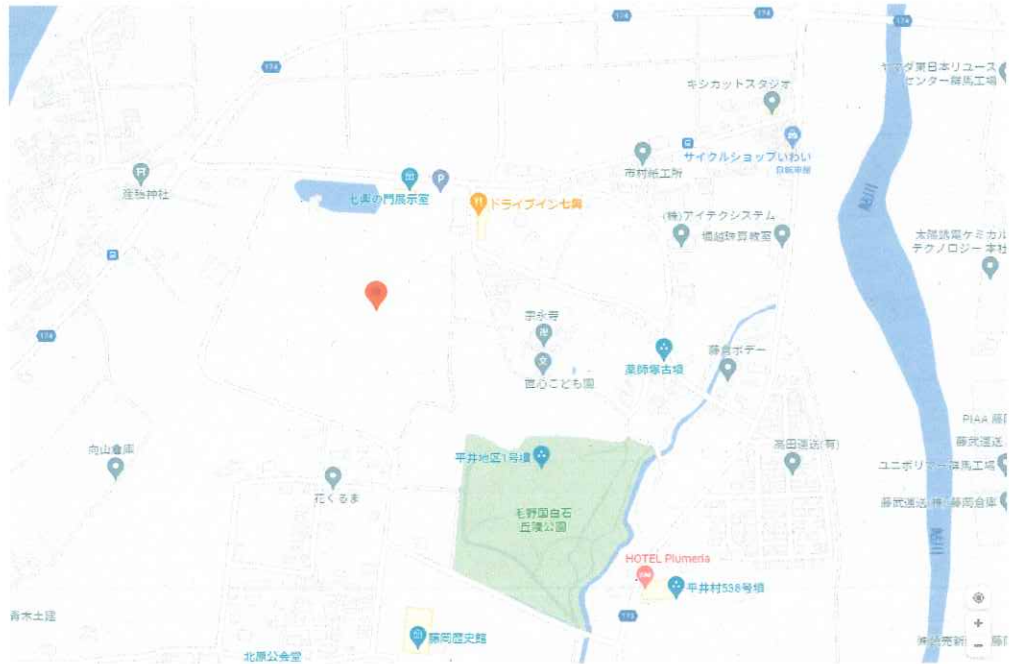
※国指定史跡



概要

利根川水系鐮川とその支流・鮎川に形成された舌状の河岸段丘上に三段築成で造られ、大きさは全長145メートル、後円部直径87メートル、前方部幅106メートル、前方部と後円部の高さはともに16メートル。中提帯や外提帯と呼ばれる土手状の堤があって二重の周溝がめぐり、前方部の前面にあたる西側では「コ」の字状にめぐる三重目の溝も発見されている。提帯には葺石、埴輪列が確認されている。

地図



埋葬施設

埋葬施設は未調査のため不明だが横穴式石室と推定される。2017年度（平成29年度）の地中レーダー探査で大規模な石室の存在が推定されている

出土遺物

出土遺物は円筒・朝顔型円筒・人物・馬・盾など各種埴輪類、須恵器・土師器があり、特に円筒埴輪は7条突帯のある直径50センチメートル、高さ1メートルを越す大型品で、貼付口縁と低位置突帯の特徴がある。埋葬品は見つかっていない。



被葬者

七輿山古墳は、5世紀後半に築造された土師ニサンザイ古墳の相似形であり、名古屋市熱田区の断夫山古墳と規格が合致するため、倭王権から緑野屯倉に派遣された尾張氏の人間が現地に葬られたとする説がある

名前の由来

本古墳からほど近い群馬県高崎市吉井町池字御門にある日本三大古碑の1つ、多胡碑に「羊」と記されている人物と同一とされる多胡羊太夫の伝説に基づく。

奈良時代に多胡郡郡司となった羊太夫は、のちに謀反を図っているとして朝廷から討伐軍を差し向けられ、居城の八束城から逃れた羊太夫の一族が落ち合った場所が「落合」という地名になり、羊太夫の妻女ら7人がここで自害し、それぞれ輿に乗せて葬ったので「七輿山」という名前になったという。

なお、多胡碑に記される多胡郡郡司の任命は8世紀初頭のことで、古墳築造推定年代の6世紀前半とは合致しない。

文化財

七輿山古墳 - 1927年（昭和2年）6月14日指定、1996年（平成8年）9月26日に史跡範囲の追加指定

七輿山古墳は・・・

古墳の墳丘は緑地で松・桜等の疎林で覆われている。地元の協力により美観が保たれ、藤岡八景のひとつになっている。

昭和47年から4回にわたる範囲確認調査で、内堀、中堤、外堀、外堤、葺石、埴輪列が確認された。特に、中堤は古墳主軸線の前方部方向と前方部南西方向の隅に方形状の造り出しが付設された。また、中堤の平坦面には2列の埴輪列が検出された。

藤岡市周辺は『日本書紀』によれば安閑天皇二年（535年）に設置された緑野屯倉に推定される地域で七輿山古墳との関係が注目されてる。



桜が満開の頃の七輿山古墳

伊勢塚古墳

群馬県藤岡市上落合にある古墳。形状は八角墳。白石古墳群を構成する古墳の1つ。群馬県指定史跡に指定されている。

| | |
|------|----------------------------------|
| 所属 | 白石古墳群 |
| 所在地 | 群馬県藤岡市上落合318（字岡） |
| 位置 | 北緯36度15分55.85秒 東経139度2分24.20秒 |
| 形状 | 八角墳 |
| 規模 | 直径272m 高さ6m |
| 埋葬施設 | 両軸式横穴式石室 |
| 出土品 | 須恵器・埴輪 |
| 築造時期 | 6世紀末葉 |



※群馬県指定史跡

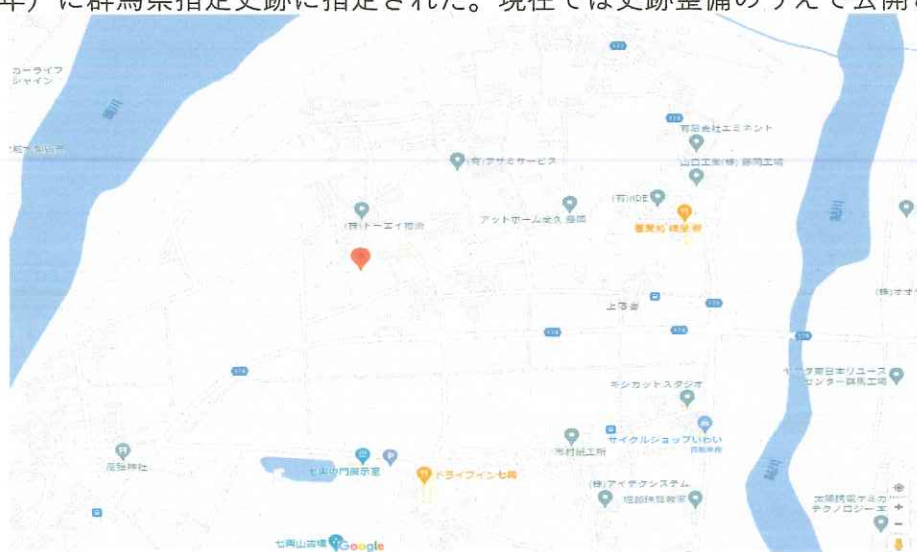
概要

群馬県南部、鐮川右岸によって形成された3段の河岸段丘の最下面に築造された古墳である。これまでに数回の発掘調査が実施されている。

墳形は不正八角形で（調査以前は円墳とされた）、直径27.2メートル・高さ6メートルを測る。墳丘は4段築成で、最下段のみ多角形（不正八角形）で2段目から上は円形である。墳丘表面では葺石が認められるほか、2段目から円筒埴輪・人物埴輪・盾形埴輪が検出されている。主体部の埋葬施設は両軸式の横穴式石室で、南方向に開口する。藤岡市内では最大規模の横穴式石室であり、「模様積み」と称される石積みおよびドーム状天井を特徴とした特異な石室として知られる。副葬品は詳らかでないが、調査では須恵器などが検出されている。築造時期は古墳時代後期の6世紀末葉（または6世紀後半）頃と推定される。

古墳域は1973年（昭和48年）に群馬県指定史跡に指定された。現在では史跡整備のうえで公開されている。

地図



来歴

- ・1938年（昭和13年）の『上毛古墳綜覧』に「美土里村56号墳」として登載
- ・1973年（昭和48年）8月21日、群馬県指定史跡に指定
- ・1987年（昭和62年）、範囲確認調査。八角墳と判明（藤岡市教育委員会、1988年に報告書刊行）
- ・1997年（平成9年）、範囲確認調査（藤岡市教育委員会）
- ・1998年（平成10年）、範囲確認調査（藤岡市教育委員会）

埋葬施設

主体部の埋葬施設としては両袖式横穴式石室が構築されており、南方向に開口する。石室の規模は次の通り。

石室全長：8.9メートル

玄室：長さ4.7メートル、奥壁幅1.84メートル、中央幅2.41メートル、前幅1.54メートル

羨道：長さ4.24メートル

石室は「模様積み」と称される独特の石積み技法により、珪岩質の転石を主として片岩製の棒状の石が小口に積み上げられる。側壁を持ち送ることで天井はドーム状を呈し、玄室の平面形は中央部が膨らむ胴張り形を呈する。天井石は丸みをもった砂岩質の2石で、奥壁も砂岩質の石である。玄門は緑泥片岩の板石により、疑似楕も架けられる。羨門は牛伏砂岩の角柱状切石による。

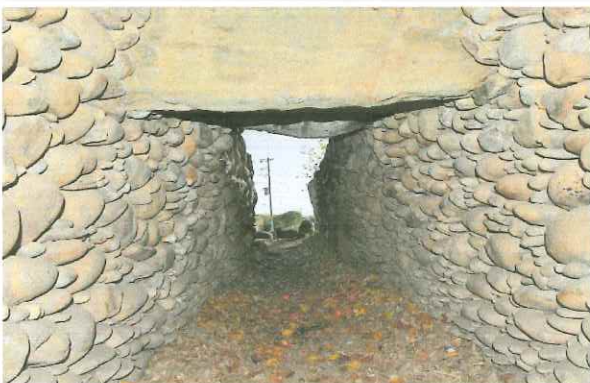
玄室（奥壁方向）



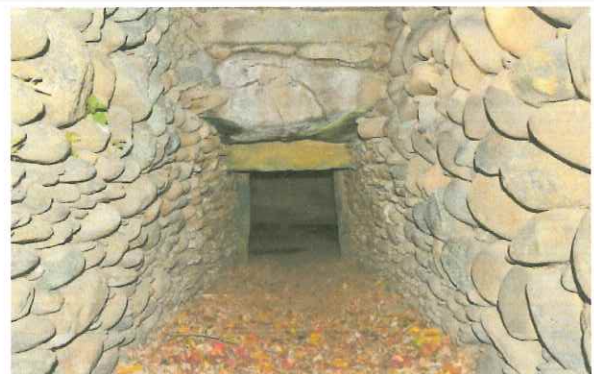
玄室（羨道方向）



羨道（開口部方向）



羨道（玄室方向）



開口部



墳丘



文化財

群馬県指定文化財

伊勢塚古墳 - 1973年（昭和48年）8月21日指定

伊勢塚古墳の特徴・・・

伊勢塚古墳の特徴は、模様積石室と呼ばれる石室にある。この石室は胴張形の平面形で、所々にやや大型の自然石を配し、その周辺に細長い結晶片石を差し込んで飛白(かすり)模様になっている点に特徴がある。こうした模様積の石室を持つ古墳は、藤岡市域から埼玉県児玉郡周辺に見られる。これらの古墳の築造は、6世紀後半に出現し、7世紀代まで継続して造られている。その中でも伊勢塚古墳の石室は特に秀でている。



羊太夫伝説

伊藤東涯による『盍簪録』（1720年（享保5年））や青木昆陽による『夜話小録』（1745年（延享2年））をはじめとする数多くの古文書や古老の伝承などに、次のような『羊太夫伝説』がみられる。この『羊太夫伝説』で、筆録された写本や地方史誌等に集録されているものは、二十数種あるとされる。この話の舞台は、群馬県西南部を西から東に流れる鐺川流域に沿った地域と秩父地方である。それぞれの『羊太夫伝説』にほぼ共通するあらすじは、次のようなものである。

昔、この地に羊太夫という者がいて、神通力を使う八束小脛（ヤツカコハギ。八束脛ともいう）という従者に名馬権田栗毛を引かせて、空を飛んで、都に日参していた。あるとき、羊太夫が昼寝をしている小脛の両脇を見ると羽が生えていたので、いたずら心から抜いてしまったが、以後小脛は空を飛べなくなってしまい、羊太夫は参内できなくなった。朝廷は、羊太夫が姿を見せなくなったので、謀反を企てていると考え、軍勢を派遣し、朝敵として羊太夫を討伐した。落城間近となった羊太夫は、金の蝶に化して飛び去ったが、池村で自殺した。八束小脛も金の蝶に化身し飛び去ったとされる。

しかし、『羊太夫伝説』のなかには、著しい差異がみられる古文書もある。『神道集』（文和・延文年間・1352年～1361年）においては、羊太夫は、履中天皇の時代（400年～405年）の人として登場する。この話では、羊太夫自身が神通力を持ち、都と上野国を日帰りしたという話が残されている。

また、687年に創基した釈迦尊寺（群馬県前橋市元総社町）には、羊太夫のものとする墓がある。寺の由来では、中臣羽鳥連・妻玉照姫・子菊野連は、守屋大連の一味同心として、蒼海（元総社）に流罪となるが、後に大赦を受け、菊野連の子青海（中臣）羊太夫が、玉照姫が聖徳太子から譲り受けた釈迦牟尼仏の安置所として、釈迦尊寺を建立したとされる。

現代においても、群馬県を中心に舞踊「多胡碑 羊太夫の燈灯」や和太鼓組曲「羊伝説」が披露されている。

5 まとめ

七輿山古墳を調査し、身近な古墳が6世紀代の古墳として東日本最大級のものであると分かった。また、七輿山古墳を調べて自分の住む「上落合」と言う地名がなぜ「落合」なのかも知ることができた。歴史館も近くにあるがなかなか行かない場所であるが、興味を持ち調べるという気持ちで行ってみると違う視点で見学することができた。調べる中で「羊太夫伝説」というキーワードがありそれについても調べることができた。隣の高崎市吉井町にある「多胡の古碑」と深く結びついていることが分かった。私の通っていた保育園（直心保育園）からすぐの場所にある七輿山古墳。そして今も犬の散歩で訪れている身近な場所である古墳であり、桜の咲く時期は多くの人を訪れる場所。地域の人たちがいつもきれいにしていることも分かった。逆に伊勢塚古墳は私が今回の研究で訪れた際は、草が生い茂っていてとても石壁の入り口までたどり着けない状態であった。時折古墳を見学を訪れている人を見かけるが見学するのが困難な状態となっていた。歴史的な大切な場所であるため、今後もたくさんの方が訪れられるような整備が必要と考えさせられた。まだ家の近くには「白石稻荷山古墳」「十二天塚古墳」などあり、今後も自分の住んでいる地域周辺の歴史について学んでいけたらと思った。

6 参考文献

- ①ウキペディア～七輿山古墳～・～伊勢塚古墳～
- ②藤岡市HP～七輿山古墳～・～伊勢塚古墳～
- ③現地の看板
- ④藤岡市歴史館
- ⑤藤岡市歴史館でもらった資料（藤岡歴史館周辺の古墳）
- ⑥羊太夫伝説～ウキペディアより～

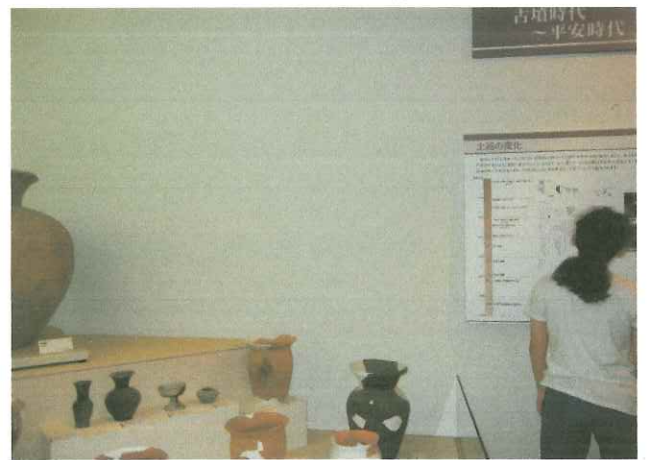
写真



歴史館入り口にて



歴史館で古墳について学んだ



七輿山古墳



伊勢塚古墳



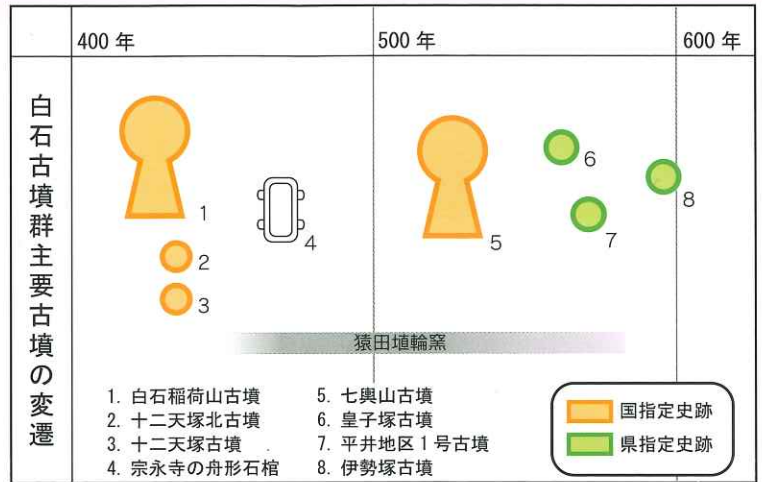
草だらけで穴に近づけず・・・

藤岡歴史館周辺の古墳 (白石古墳群)

白石古墳群とは

白石古墳群は、鮎川と鏑川に挟まれた段丘に分布する古墳の総称です。5世紀前半から200年以上古墳が造られ続け、その数は約270基にのぼります。藤岡市全体で1,511基(2017年現在)の古墳が確認されていますが、白石古墳群はその約20%が存在する古墳の密集地でした。

主な古墳として国指定史跡の大型前方後円墳である白石稲荷山古墳と七輿山古墳があります。そのほかに県指定史跡として平井地区1号古墳、皇子塚古墳、伊勢塚古墳の3基の円墳があります。

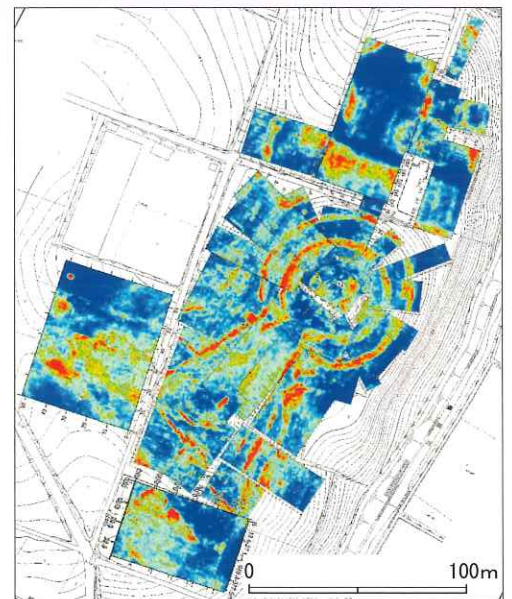


白石稲荷山古墳

白石稲荷山古墳は、5世紀前半につくられた全長約155mの前方後円墳です。2019年(平成31年)に地中レーダー探査が行われ、左右対称の整った形をしていることや、墳丘が三段築成であることなどがわかりました。

1933年(昭和8年)には発掘調査が行われ、後円部に2つの埋葬施設まいそうしせつが見つかりました。ここからは、刀や鏡のほか、たくさんの石製模造品せきせいもぞうひん(石を研磨して作ったミニチュア品)が出土しました。そのほか、埋葬施設の上からは甲冑や家を表した形象埴輪かぶつが出土しており、この出土品は東京国立博物館に収蔵・展示されています。

この古墳は、墳丘をより大きく見せることや、どこからでも見ることができていることを意識して、わざと河岸段丘際の急斜面きせきしに接するようにつくられています。墳丘の斜面を石で覆い(葺石)、たくさんの埴輪を並べたため、その壮観さが感じられます。当時の人々が、古墳を「他者へ見せる」ことを強く意識していたことがうかがえます。



白石稲荷山古墳周辺レーダー探査の成果



白石稲荷山古墳(南東から)

十二天塚古墳・十二天塚北古墳

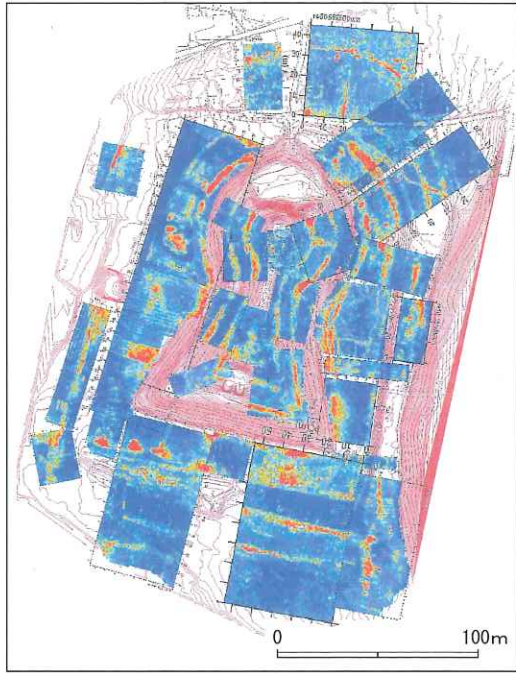
十二天塚古墳と十二天塚北古墳は、白石稲荷山古墳のすぐ北側につくられた2基の円墳です。白石稲荷山古墳と併せて国の史跡に指定されています。どちらも直径が22mほどで、出土した遺物から5世紀前半につくられたと考えられています。古墳の場所や時期が近いので、白石稲荷山古墳を強く意識してつくられたと想定されています。

以前は方墳や長方形墳と推定されていましたが、2019年(平成31年)のレーダー探査の結果、円墳であることが明らかになりました。

七輿山古墳

七輿山古墳は、6世紀前半につくられた前方後円墳です。この古墳は6世紀代につくられた古墳としては東日本で最大級のもので、2018年（平成30年）に行われた地中レーダー探査により、墳丘長が約150mであること、また、後円部には全長が20m近い横穴式石室が存在していることも判明し、東日本で最大級の横穴式石室を持つ古墳であることも明らかになりました。墳丘の外側には濠が二重に巡っています。現在でも濠や堤の一部がその姿を留めており、当時の姿を偲ぶことができます。

過去の発掘調査で出土した円筒埴輪は、直径が40cmを超え、高さも1mを超える非常に大型なもので、突帯が7条巡っていました。このような大型で複数の突帯を巡らせる円筒埴輪は、綿貫観音山古墳など群馬県でも限られた一部の古墳にしかみられない貴重なものです。



七輿山古墳レーダー探査の成果



上空からみた七輿山古墳

伊勢塚古墳

白石古墳群に現存する古墳のうち、最北端に位置するのが伊勢塚古墳です。6世紀末頃につくられた直径約27mの円墳で、横穴式石室を持っています。この石室の左右の壁には、大小の河原石を組み合わせた「模様積」と呼ばれる積み方が見られます。この模様積石室は藤岡市とその周辺の一部地域にしか見られない特殊なもので、市内にも模様積石室の古墳が数基残っていますが、なかでも最も整一で美しいものです。なお、伊勢塚古墳は自由に入入りし、観察することができます。



側壁の模様積



伊勢塚古墳の横穴式石室

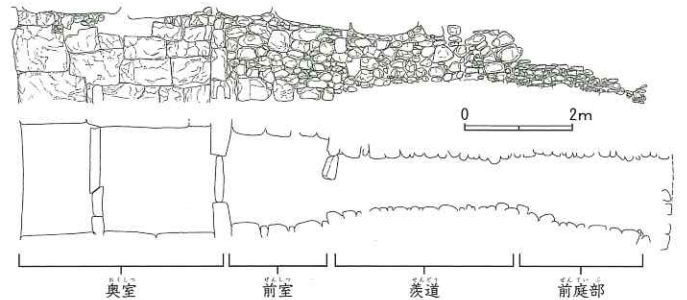
皇子塚古墳

皇子塚古墳は6世紀後半につくられた直径約31mの大型の円墳です。横穴式石室は、南東に開口する全長8.3mの大規模なものです。今は見ることはできませんが、**玄室**（死者を葬るための空間）が前後に2つ連なる**複室構造**の石室で、奥の**玄室**（**奥室**）のみ凝灰岩を加工し形を整えた石材を使っていました。複室構造の石室は、6世紀後半の古墳ではほとんど採用されていない珍しいものです。

また、この古墳では**金銅装単龍環頭大刀**の柄頭が出土しています。残念ながら刀身などは残っていませんでしたが、平井地区1号古墳の装飾大刀とともに藤岡市の歴史を語る重要な資料です。



皇子塚古墳の横穴式石室（写真）



皇子塚古墳の横穴式石室（実測図）

平井地区1号古墳

皇子塚古墳のすぐ北にある直径24mの円墳が、平井地区1号古墳です。発掘調査によって大きく壊された横穴式石室が見つかり、多数の副葬品が出土しました。ほとんどの古墳では、南側に入口を向ける横穴式石室を持つのに対し、この古墳の石室は北側に入口が向く珍しい構造となっています。

また、出土した副葬品のなかで特に注目すべきものとして、**金銀装単鳳環頭大刀**と**銀象嵌円頭大刀**という、2本の装飾大刀があります。どちらもほぼ完全な形で見つかっており、埴輪や土器などとともに一括して国指定重要文化財になっています。墳頂や石室入口の前では、小石を敷いた場所と、そこに置かれたさまざまな須恵器が見つかりました。ここでは、何らかの祭祀が行われていたと考えられています。

これら装飾大刀や埴輪、土器などの出土遺物から、6世紀後半につくられた古墳と考えられています。



亀の甲羅のような文様を彫り込み、そこに銀を入れて装飾しています。

金具には金メッキが施され、柄頭の環のなかに鳳凰が1体表現されています。



平井地区1号古墳出土
銀象嵌円頭大刀（左）
金銀装単鳳環頭大刀（右）

伊勢塚古墳

- 国指定史跡
- 県指定史跡
- 徒歩見学ルート
- P 駐車場
- ♿ トイレ

駐車場入口の石積、何か似ていると思いませんか...?

七輿山古墳

舟形石棺を間近で見ることができます!

平井地区1号古墳

皇子塚古墳

階段が急です。

住宅地で道が狭いです。

藤岡歴史館

白石古墳群等の出土遺物を展示しています。

橋の親柱に注目!

道が狭いため、ご注意ください。

十二天塚北古墳 十二天塚古墳

白石稻荷山古墳

